

議 事 要 旨

議 事 要 旨	
会 議 名	徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会
日 時	平成29年2月23日(木) 19:00~21:00
場 所	徳島大学病院大会議室 (中央診療棟5階)
出 席 者	埴淵会長、金山部会長、福森委員、広瀬委員、石倉委員、住友委員、林委員、漆川委員、秋田委員、日野委員、岡久委員、居村委員、六車委員、西村委員、福川委員、鎌村委員、宮本委員
欠席者	寺嶋委員、田中委員、坂東委員、藤原委員
陪 席	徳島大学病院医療支援課：阿部主任、宮越事務補佐員 徳島大学病院：鈴木副看護部長、三木看護師長 健康増進課：平田補佐、 徳島市民病院：高尾氏、徳島赤十字病院：豊野氏、徳島県立三好病院：吉田氏、 徳島県立海部病院：垣内氏
<p>【議題1】 各がんの診療連携の状況について</p> <p>最初に、金山徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会長（以下、金山部会長という。）司会進行のもと、徳島県がん診療連携協議会 診療連携部会が開催された。開催にあたり、徳島県がん診療連携協議会埴淵会長から挨拶があった。</p> <p>1. 徳島県生活習慣病管理指導協議会の各がん部会より報告があった。</p> <p>①肺がん部会：住友委員から平成29年3月14日に肺がん部会を開催する予定である。まだ、データは出ておらず、今年度は低調で来年度は頑張っていきたいとの報告があった。</p> <p>②乳がん部会：日野委員から、治療の記録ノートについては徳島大学病院では使用しているが、徳島市民病院や東徳島医療センター、阿南中央病院では最近あまり使用していない。乳がんの場合、施設で完結している場合が多く、個人病院ではホルモン療法の薬を出しているだけとなっているため、低調になっているのが現状であるとの報告があった。</p> <p>③胃がん部会：六車委員から、がん診療連携拠点病院を中心に診療連携を進めている。昨年度のクリティカルパスは、Stage1については活用が進んでいるが、Stage2以上に進むにつれ治療の記録ノートの普及が進んでいない。「がん予防重点健康教育及びがん検診のための指針」の一部改正により、平成28年度より胃がん検診の検査項目に胃内視鏡検査が追加されたことから、本県におきましても、県内の市町村広域化により胃がん検診に胃内視鏡検診を導入することとなった。徳島県胃内視鏡検査導入検討会が設置され、今後は実施機関としての基準の確認等や導入詳細等について検討する予定であるとの報告があった。</p> <p>④大腸がん部会：岡久委員から、各市町村と連携しながら受診率を上げる取り組みを行っている。検診を受けた後の結果を各医療機関に送る場合に様式の形式を変えることでさらに効率活用できないかとのことで検討を行っている。治療の記録ノートについては、十分に活用できていないことから、部会でも普及活動を行っているとの報告があった。</p> <p>⑤肝がん部会：居村委員から、B型C型の肝炎ウイルス患者さんが減少してきたとはいえ多いことから、ウイルス性肝炎の早期発見・早期治療のため、部会としても肝炎ウイルス検査を活動として行っている。県内全医療圏域で140の医療施設で無料の肝炎ウイルス検査を実施している。B型C型の肝炎ウイルス患</p>	

者さんが発見されれば専門医療機関の40施設で治療が可能である。また必要に応じて重点治療や集学的治療となると拠点病院や大学病院に紹介していただくような連携を取り組みとして部会の活動としているとの報告があった。

- ⑥子宮がん部会：西村委員から、子宮がん検診実施要項の一部改正が本年度行われる予定である。精密検査結果通知書が紹介状扱いとなるかどうか病院により対応が異なることから、患者さんが受診しやすいように行うことを目標としている。連携について子宮がんは治療した病院で完結することが多く、連携しにくいのが現状である。また、連携クリティカルパスについては、リンパ浮腫に関して連携が出来るようにリンパ浮腫の項目を追加することとなった。平成29年4月から運用を開始する予定で、治療の記録ノートについても内容を変更した第2版を作成し4月に完成する予定である。徳島大学病院でも平成28年度は28冊配布を行っており、今後はもう少し普及していきたいとの報告があった。
- ⑦前立腺がん：福森委員から、前立腺がんに関してはまだ部会がない。治療の記録ノートの活用もまだ出来ていない、各施設に任せて各施設で治療しているのが現状である。治療の記録ノートも新薬が出たりしたことから、第2版を作成し平成29年4月に出来上がってくる予定である。治療の記録ノートが新しくなることから、今後は活用も進んでくるのではないかとの報告があった。
- ⑧食道がん：委員欠席のため、報告無し。

金山部会長から、進行がんは連携が難しいが状況に応じて連携をして頂きたい。進行した場合は、緩和医療や在宅医療への連携が近年は対策が進んできている。今後は治療の記録ノートを活用してがん診療連携拠点病院と受け入れ先の医療機関との連携を進めていただきたいとの要望があった。

【議題2】 各拠点病院における地域連携クリティカルパスの活用状況、手帳の運用状況について

各拠点病院から、別紙資料7に基づき連携保険医療機関届出施設数とがん治療連携策定料加算件数の報告があった。

- ① 徳島大学病院福森委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は平成24年4月から算定を開始しており、平成28年度は乳がん・食道がん・前立腺がんの算定が出来ている。肺がんに関しては、術後の退院後は半年程度当院で経過観察を行っているため30日以内での算定が難しい。その他に関しては、事務から診療科に説明会を行っているが、担当医の異動等に伴い、なかなか加算まで結びついていないのが現状である。また、がん患者指導管理料1.2に関しては平成26年4月から算定を開始しており、平成28年度から緩和ケアセンターに3名の看護師が配属されたことにより増加傾向である。特に、乳腺外科からの依頼が多い。外来がん患者在宅連携指導料については平成28年4月より新設された。5月から各診療科で説明会を行い、算定を6月より開始した。医師からの依頼のもと、がん相談支援センター相談看護師・緩和ケアセンター看護師・MSWらと連携しながら算定を行っているとの報告があった。
- ② 徳島県立中央病院広瀬委員から、2005年からクリティカルパスを開始しており、がん治療連携計画策定料加算件数は平成27年度1年間で肺がん・大腸がん・胃がん・肺がん・食道がん・乳がん・子宮体がん147件算定があった。また、がんの術後の患者さんでがん治療連携計画策定料に結びつく患者さんは3割ぐらいである。今後も連携保険医療機関を増やしていくことを目標としており、現在257医療機関と連携を結んでいる。進行がんの方や抗がん剤治療の方には連携が難しいため、増やすことが困難であり、今後は早期肺がんと進行がんに分けたパスを作成するとか、きめ細かな内容にするなど工夫する必要があるのではないかとの報告があった。
- ③ 徳島赤十字病院石倉委員から、がん治療連携計画策定料加算件数は4件の算定である。算定できていない原因として、連携先の開業医が連携医療機関として手を挙げていないこともある。治療の記録ノート配布については、配布を行っていない。院内のコンセンサスが得られていないことなどから普及

が進んでいないのが現状であるとの報告があった。また、治療の記録ノートについては毎年同じ話を行っているため、現場に馴染んでいないのは何か原因があるのではないかとの意見があった。

- ④ 徳島市民病院山崎委員が欠席のため医事経営課の高尾氏から、治療の記録ノートの配布については、数年前は配布を行っていたが、最近はほとんど配布が出来ていない。がん治療連携計画策定料加算件数は、数年前に大腸がんで算定があっただけであったが昨年は乳がんで算定があったとの報告があった。
- ⑤ 徳島県立三好病院住友委員から、がん治療連携計画策定料は厚生支局に届出を出しておらず算定は出来ないが、肺がんの連携は行っている。西部地区は連携することが非常に難しい。がんに限らず連携医療機関になっていただく工夫を行い近年は少しずつ根付いてきたところであるとの報告があった。

金山部会長から、患者さんはがん診療連携拠点病院で手術を行えばその病院で見てほしいため、連携を密にしてあげるのいいのであるが構築できていないのが現状である。今後は連携に関するセミナーを行い、周知していく必要があるとの意見があった。

【議題3】手帳の運用状況について

①徳島大学病院福森委員から、治療の記録ノートは、がん治療連携計画策定料算定の患者さんに配布を行っているが、算定が出来なかった患者さんや術後の患者さんにも副作用や相談窓口、災害時の準備等についても掲載されているため、活用していただけるように配布を行っている。特に乳がん患者さんに配布が多い。また、新しく情報を記載した改訂版も作成されてくるため今後も活用していきたいとの報告があった。

金山部会長から、災害時にかかりつけ医に行けない場合に、どのような治療を行っているか情報を持っていないと受診する病院も困るため、ぜひ治療の記録ノートの活用をして頂きたいとの要望があった。

②徳島県立中央病院広瀬委員から、治療の記録ノートは配布を行っている。平成28年度は肺がんが96件、胃がんが60件、大腸がんが85件となっている。外来診療の中で医師が配布することは難しく、術後の患者さんが来られた場合にクラークが名前や住所記入し置いている。医師が術式やStage等記入し、医師・看護師が説明を行っているため配布数が多い。しかし、半年後などに連携先から来た方が手帳を持ってこられる方は少ないため、有効に活用が出来ていないのではないかとの報告があった。

③徳島赤十字病院石倉委員から、配布のみならずクラークから配布を行い、数を増やすことは可能であるが、続いていないのでは意味がなく、紹介状でやりとりを行っていることから治療の記録ノートの活用が生かされていない。患者さんの意識があり持ち歩くのであれば生かされると思うが、今後は内容が充実しても患者さんが活用するかはわからないため、課題かと思われるとの報告があった。

④徳島市民病院山崎委員が欠席のため医事経営課の高尾氏から、治療の記録ノートの配布については、数年前は配布を行っていたが、最近はほとんど配布が出来ていない状況である。有効に使えていないことから医師が配布をためらっているのかと思われるとの報告があった。

⑤徳島県立三好病院住友委員から、治療の記録ノートについては連携が出来ていないことから配布が出来ていない。使用方法については、来年度夏頃に勉強会を開催して周知していきたいとの報告があった。

⑥徳島県鳴門病院漆川委員から、治療の記録ノートについては連携が出来ていなく、紹介された患者さんも当院で診ているため、リンパ浮腫の記載があるため参考程度に読んでもらう目的で配布を行ったり

している。今後は、災害等の掲載がされると配布も行いたいとの報告があった。

⑦吉野川医療センター林委員から、ドクターに聞いても治療の記録ノートを持参される方は、いない状況であるとの報告があった。

金山部会長から、治療の記録ノートについて今年度は婦人科がんと前立腺がんが新しく改訂される予定なのかとの質問があった。

西村委員から、現在印刷にかかっている状況で、3月末に出来上がってくる予定で、平成29年4月からは新しい手帳が使用可能であるとの回答があった。

金山部会長から、肺がんについては平成30年4月頃に新しく改訂版が作成される予定であるとの報告があった。

広瀬委員から、有効活用されていないことからお薬手帳のように手術をされた方すべてが持参されるようになっていかないと普及されないのではないかと。災害の時に持ち出すには、1頁に術式や組織系、Stageなど必要事項の記載に使用したり、大きさをコンパクトにするなど工夫する必要があるのではないかと意見があった。

金山部会長から、記載については外来で行うことは難しく、入院して退院時に渡すなど行うと普及もしてくるし、活用も増えてくるのではないかと。可能であれば各施設で退院時に渡すようにしていただきたいとの要望があった。

住友委員から、手術をされた患者さんはケースファイルに全ての書類を入れている方が多い。治療の記録ノートは母子手帳が原型であるのではないかと。妊娠された方は母子手帳ですべてが記載されている。治療の記録ノートは新薬や医療情報等のコンテンツを入れれば持ち歩いてくれるのではないかと意見があった。

金山部会長から、各がんの部会で使用しやすいよう検討していただき、内容を充実させていただき使いやすい手帳にさせていただきたいとの要望があった。

【議題4】徳島県がん診療連携センター開催報告について

金山部会長から、別紙資料「徳島県民がんフォーラム2016実施報告書」について報告があった。

① 平成28年9月25日(日)13:30~16:30徳島大学大塚講堂で徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会が主催、徳島大学病院がん診療連携センターと徳島新聞社が共催で開催を行った。

②内容は国立がん研究センターがん対策情報センターの若尾センター長、徳島県保健福祉部の鎌村次長、徳島県がん診療連携協議会の埴淵会長、ガンフレンドの勢井代表、徳島大学病院の鈴木副看護部長に講演いただいた。

② 当日の総来場者は509人と非常に多数の参加があった。アンケート結果は資料を参照。

③ 参加者にどこで知ったかの質問で、徳島新聞掲載を見ての参加者が一番多かった。

金山部会長から、今回は徳島県がん診療連携協議会診療連携部会、情報提供・相談支援部会が主催でがん相談支援センターの周知を行った。その他に緩和ケア部会もあることから、徳島県がん診療連携協議会全体で徳島県民の方々に周知をする必要があることから、毎年市民公開講座を行いたいとの要望があった。

住友委員から、非常にいい取り組みだと思つたため、是非行っていただきたいとの意見があった。

金山部会長から、来年度も患者さん対象に治療のこと、相談体制、連携体制、緩和についてなど市民向け公開講座を企画したく、開催の折には協力をお願いしたい。徳島県の西部や南部でも開催を行いた

いが年に1回のため、徳島市内で開催する予定で進めていきたいとの要望があった。

石倉委員から、参加者の方の徳島市や南部とか等の地域とはわかるのかとの質問があった。

徳島大学病院医療支援課宮越事務補佐員から、参加者の住所の地域はわからないとの回答があった。

石倉委員から、参加者は東部地域在住の方が多いかと思われるが、医療過疎は徳島県南部と西部のため、徳島県主催で南部や西部で行っていただきたいとの要望があった。

金山部会長から、それもある。しかし、徳島新聞に掲載したことから西部や南部の方にもこのようながんの催しを行っていることを知っていただけたのではないかと。ぜひ、西部や南部の先生方に開催をしていただきたい。頻繁に行うことで県民の方に周知していただけないかとの意見があった。

鎌村委員から、普及啓発等に関してがん診療連携拠点病院の先生方にお世話になっている。地域連携について医師会では、かかりつけ医と拠点病院等の医療機関で地域医療構想として、地域包括ケアでは地域在宅医療介護連携のところで必須項目として地域連携パス、退院の手引き等をツールとして活用している。徳島県海部病院・三好病院でも地域で取り組んで研修会や講演会等していただいているため、普及啓発に向けて徳島県としても地元の市町村等と協力して行えるよう検討していきたいとの要望があった。

金山部会長から、徳島県全域に普及や周知に向けて、講演会等行っていただきたいとの要望があった。

【議題4】 その他

宮本委員から、全国の患者会同士が集まって、どのようなことが出来るかなど話を行った。各県で地域連携のパンフレット等を交換したが、患者の意見が反映されているパンフレットは、欲しい情報が掲載されており、患者にとっては非常に情報が網羅されており有意義なパンフレットであるため、ぜひ患者も一緒に入り治療の記録ノートについてもお手伝いさせていただきたい。また、がん検診向上プロジェクトの取り組みとして徳島県がん診療連携協議会主催の県民フォーラムでも共催させていただきたいとの要望があった。続けて、ピアサポートについても活用いただけるようピアサポーターの体制も検討しているとの報告があった。

金山部会長から、治療の記録ノートを作成する場合に、患者会の方に見ていただき意見をいただいてもいいのではないかと意見があった。

秋田委員から、医科歯科連携について講習会などで210名の登録がある。周術期口腔機能管理については徳島大学病院、徳島市民病院、最近では徳島県立中央病院からの依頼も来ている。その他、徳島赤十字病院、徳島県鳴門病院からも徳島県歯科医師会在宅歯科医療連携室を利用して月に50名前後の依頼がきている。徳島県歯科医師会在宅歯科医療連携室も東部、南部にも設置して協力を行っていただきたいとの要望があった。

金山部会長から、治療の記録ノートや連携パスの普及をさせて活用させていただきたいとの要望があり閉会となった。